

第1学年 生活科学習指導案

日時 平成17年 9月16日(金) 5校時
児童 男子2名 女子2名 計4名
指導者 内村 悦子
場所 1年教室

1 単元名 おおきくなったね かわったね パート2

2 単元について

本単元は、生活科の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。」に重点をおいて設定したものである。本単元では、栽培活動をとおして、地域の人とかかわりを持ちながら、野菜の世話や成長に関心を持ち、親しみをもって大切にしようとする心を育てたいと考えた。野菜の栽培を取り上げたのは、地域や家庭でよく作られてはいるが、手伝った経験が少なく、身近な野菜であってもよく知らないという児童の実態があったからである。栽培活動を行うにあたっては、生活科の2年間をとおして計画的に素材を選択し、活動を構成していく必要がある。そこで、地域の特性を生かしながら、発達段階に応じて、1年生では、なるべく手を加えないで味わうことのできる野菜を、そして2年生では、加工して味わうことのできる野菜を育てていきたいと考え、この単元を設定した。栽培活動をとおして、児童は、「おいしい野菜を作る」にはどんなことに気を付けて世話をしたらよいか、調べたり、考えたり、地域の野菜栽培の先生から聞いたりすることにより、親しみをもってかかわっていくことができると考える。

児童は、「おおきくなったね かわったね パート1」で、草花で遊んだり、羊や、校舎の裏の側溝にいた生き物とふれあったりすることとおして、自然や動植物とのかかわりを広げ、季節による変化や成長に気付くようになってきた。

活動を行う中で、本単元では、家族の中から祖父母の方々に野菜の先生になってもらい、一緒に野菜を育てながら、世話の仕方を教わったり、収穫の喜びをともに味わったりして、身近な人々や野菜に親しみをもって接する心を育てていきたいと考える。また、育ててきた過程を振り返る活動では、発見したこと・感じたこと・気付いたことなどを絵や簡単な文章で表現させたい。児童は、相手を意識して伝え合う学習は、本単元で2度目である。したがって、まとめの段階では、児童それぞれが最も伝えたいことについてまとめさせるが、どのようなまとめ方をすればよいのかを、児童と一緒に考えながらシナリオ作りを進めていきたい。仮説1にかかわる発表では、人前で発表することが苦手な児童も見受けられることから、「ゆっくり はっきり 大きな声で」言うことができるように練習したり、お互いの発表を聞いてよさを見付けることができるようにしたりして、発表したいという意欲を高めていきたい。仮説2にかかわる発表では、自分の祖父・祖母が、伝えたい相手であることをはっきり意識させて「ゆっくり はっきり 大きな声で」をめあてに発表させたい。また、友だちの発表を聞くときには、練習よりよくなったことなどのよいところを言うことができるように、集中して聞くことが大事であることを学ばせたい。栽培活動をとおして、身近な人とかかわりを広げながら、季節による野菜の成長に気付かせることにより、身近な自然に親しみを持ち、大切にしようとする子どもを育てていきたいと考える。

3 単元のねらい

【関心・意欲・態度】

- ・友だちと協力しながら、野菜の種蒔きや苗植えをしようとする。
- ・積極的に野菜の世話や収穫、後片付けをしようとする。

【思考・表現】

<課題解決の力>

- ・野菜の育て方を野菜の先生に教わりながら、苗を植えたり、世話をしたりすることができる。
- ・野菜の収穫時期が分かり、その成長を喜びながら収穫し、畑の後片付けまですることができる。

<表現する力>

- ・野菜を育てて分かったことや気付いたことを絵や簡単な文章でまとめ、発表することができる。

【気付き】

<気づく力>

- ・野菜の成長のためには、水やりや草取りなどの世話をしなければならないことに気付く。
- ・野菜の世話をすることにより、その成長に気付く。
- ・自分や友だちの発表のよさに気付く。

4 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	野菜を育ててみたいという意欲をもつことができる。 野菜の先生の話をしっかり聞き、進んで野菜の種を蒔いたり、苗を植えたりしようとする。 進んで野菜の世話や観察をしようとしている。 進んで野菜の収穫をしようとしている。 進んで畑の後片付けをしようとしている。
思考・表現 <課題解決の力>	育てたい野菜を決め、種を蒔いたり苗を植えたりすることができる。 世話の仕方を考えたり教わったりして、世話をすることができる。 野菜の収穫時期が分かり、野菜の成長を喜びながら、収穫をすることができる。
<表現する力>	野菜の世話や収穫をとおして、分かったことや気付いたことを絵や文章に表すことができる。 発表の仕方を考えて、聞き手に分かるように発表することができる。 野菜の先生に感謝の手紙を書くことができる。
気付き <気づく力>	野菜の成長には、水やりや草取りの世話が大切であることに気付く。 野菜の種類によって、成長や収穫時期に違いがあることに気付く。 野菜の世話をすることにより、その成長に気付く。 自分や友だちの発表のよさに気付く。

5 単元活動計画 (計25時間)

[]は時数

段階	時	ねらい・学習活動・内容	評価
出会う	(2)	<p>家の人に聞くなどして、内川目ではどんな野菜が育つかということについて調べることができる。</p> <p>(1)聞いてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の畑に出かけ、野菜を育てることを知る。〔1〕 ・内川目で育てることができる野菜を調べ、何を植えるか決める。〔1〕 	<p>< 関 - ></p> <p>< 課 - ></p>
かかわる	(14)	<p>野菜の先生に教えてもらいながら、種蒔きや苗植え、収穫、後片付けまで行うことができる。</p> <p>(1)種を蒔こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の先生に教えてもらいながら、種蒔きや苗植えを行う。〔2〕 <p>(2)世話をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水やりをしたり、草取りをしたりする。〔2〕 ・支柱や柵作りなどの世話をする。〔2〕 ・成長の様子を観察カードに書く。〔2〕 <p>(3)収穫をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育てた野菜を収穫する。〔2〕 ・収穫した野菜を味わう。〔2〕 <p>(4)片付けをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑の後片付けをする。〔2〕 	<p>< 関 - ></p> <p>< 課 - ></p> <p>< 関 - ></p> <p>< 課 - ></p> <p>< 表 - ></p> <p>< 気 - ></p> <p>< 関 - ></p> <p>< 気 - ></p> <p>< 課 - ></p> <p>< 関 - ></p>
まとめる	(9)	<p>育てた野菜について振り返り、まとめて、野菜の先生に知らせたり、感謝の手紙を書いたりすることができる。</p> <p>(1)まとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の方法を考える。〔1〕 ・気が付いたこと、分かったことなど、伝えたいことをはっきりさせてまとめる。〔3〕 ・感謝の手紙を書く。〔1〕 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(2)中間発表会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆっくり はっきり 大きな声で」発表できるように練習をする。〔1〕 ・中間発表会をして、友だちのよかったところや直した方がよいところを見付け合う。〔1〕 ・直した方がよいところに気を付けながら練習をする。〔1〕 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(3)お世話になった方に伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が育てた野菜について、気が付いたこと、分かったことを発表する。〔1〕 本時 </div>	<p>< 表 - ></p> <p>< 気 - ></p> <p>< 表 - ></p> <p>< 気 - ></p> <p>< 表 - ></p>

「注」 はねらい、()は学習活動、・は内容、ゴシック体の部分は学団の重点目標を示す。

6 本時の学習

(1) 仮説とのかかわり

本時は仮説2にかかわって、学びを自分のものとするための単元のまとめの発表をする場面である。発表者には、自分が育ててきた野菜に対する思いや、野菜の世話をしながら気付いたことを、お世話になった野菜の先生方に分かるように、相手を見て「ゆっくり はっきり 大きな声で」発表させる。聞き手には、友だちの発表で中間発表のときよりよくなったところを探しながら聞くように、視点を示していきたい。

(2) 学習のねらい

- ・野菜に対する思いや気付きを、自分の言葉で伝えようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・練習したことを「ゆっくり はっきり 大きな声で」発表することができる。(思考・表現)
- ・友だちの発表を聞いて、よいところを見付けることができる。(気付き)

(3) 学習の達成目標

- ・伝えたいことが分かるように、恥ずかしがらずに発表している。
- ・「ゆっくり はっきり 大きな声で」発表している。
- ・友だちの発表を聞いて、よかったところを言うことができる。

(4) 本時の展開

(・は活動のねらい、*は教師の支援、 は評価を示す。)

段階	学習活動の流れ	ねらい・支援・評価
導入 5分	1 学習のめあてをつかむ。 めあて そだてたやさいのじまんたい かいをしよう。	・本時の学習のめあてをつかませる。 *本時の流れを知らせるとともに、発表するときは、「ゆっくり はっきり 大きな声で」話すこと、聞くときは、友だちの発表のよいところを言うことができるように聞くことなど、発表の視点を確認する。 めあてを音読したり、復唱したりして確認することができたか。
展開 30分	3 発表を行い、よかった点を出し合う。 (1)たった2本から (2)むずかしかった なす (3)しんぱいしたよ とまと (4)だいすき ぴいまん	・練習したことを生かして、「ゆっくり はっきり 大きな声で」自分の発見を発表させる。 ・友だちの発表のよいところを見つけて教えてあげることができるようにさせる。 *一人一人の発表に対する価値付けは、気付きの面、内容、態度、工夫、声の大きさなど、よいと思われる点について取り上げる。 自分の伝えたいことを、「ゆっくり はっきり 大きな声で」発表することができたか。また、友だちのよさを見付けることができたか。
終末 10分	4 まとめをする。 (1)野菜の先生方から今日の発表や一緒に活動したことについて感想を聞く。 (2)野菜の先生方に、感謝の気持ちを込めて、手紙を渡す。	・話す人を見てしっかり聞くようにさせる。 野菜の先生方を見て、しっかり話を聞くことができたか。